

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 洛和福祉会	代表者	矢野 一郎	法人・事業所の特徴	平成 24 年 4 月に開設した事業所であり、建物も新しくご利用者もスタッフも明るい事業所です。グループとしては 2 番目の小規模多機能居宅介護事業所であり、事業所間の情報交換・連携も行えています。レクレーションに力を入れており皆さん楽しんで下さっています。ご利用者やご家族の意向を大切に、柔軟な対応を心掛け支援させて頂いております。
事業所名	洛和小規模多機能サービス 山科西野	管理者	岩崎 安信		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	0 人	7 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の「以前の暮らし方」についての把握が不十分である為、ミーティング等で情報収集に努める。	本人の気持ちや、体調の変化に気付いた時はリーダーに報告し、職員間で共有できている。	改善計画を元に取り組みでおられると思います。	「以前の暮らし方」について、まだまだ把握不足である為、引き続き情報収集に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	エントランスが殺風景な為、利用者の作品を展示する等工夫し、地域の方々も出入りし易い環境を作る。	利用者の作品を展示し、金魚を飼育する等工夫はしているが、地域の方々も気軽に出入りする環境までには至っていない。	玄関に金魚もいて、誰がお世話をしてられるかわかりませんが、イメージは良いと思います。	利用者の作品も季節ごとに変更し、外部にもっとアピールする手段を検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方々も飛び込みの相談等をし易い環境に整備する。	イーゼルを設置し、事業所のアピールをする事で、通りがかりの方々の目にはとまっているが、直接の相談はまだない。	会議の時くらいしか来ないので詳しくは分からないが、地域向けの行事もされていて、事業所については徐々に認知されてきていると思います。	イーゼルの設置は継続し、アピールポイントや表示内容を有る程度の期間で変更する様にする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事（お茶しませんか？）等、地域行事に、もっと多くの利用者と共に参加出来る様工夫する。	地域の祭りや小学校行事に利用者とともに参加できている。	小学校での祭りにも参加されており今後も継続して参加をお願いしたい。	地域行事には利用者と共に、引き続き出来る限り参加する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	参加して下さるご家族様に偏りがある為、もっと多くのご家族様に参加して頂ける様に案内する。	一ヶ月前には参加案内を出し参加されるご家族に偏りがなくなった。	運営推進会議の場で、その他の職員さんの紹介をして頂けたら、散歩等で出会ってもコミュニケーションが取れると思います。	地域の方へ職員の紹介が出来る仕組みを作る。
F. 事業所の防災・災害対策	・地域の方に訓練の案内を発信し参加の協力を得る。	地域の方々への参加促しが出来ていない為、来年度も継続する。	学区の祭りの訓練には参加されていますが、事業所の訓練には時間が合わず参加できていません。	地域への発信を出来る限り早くし、より多くの地域住民に参加をお願いする。